Management Club Report

Nov.2022/Vol.239

Monthly Opinion　≪ノーブレス・オブリージュ　Ⅱ≫

前号では『高貴なる職業の責任＝ノーブレス・オブリージュ』を明確に、そして強く意識することこそ国民全体が求めているものであるとの考えについて述べました。自衛官、警察官、消防士、海上保安官といった国の安全と国民の生命を守る職業、将来の国を背負って立つ子供の教育に当たる教師、国民の生命を救い、健康を守る医師、歯科医師といった職業に就く人たちの矜持について書きました。

しかし世の風潮は、このような職業に就く人たちに対する敬意が薄らいでいるように感じられます。特に教師に対しては、かつて存在した「三歩下がって師の影を踏まず」の句は現代では耳にすることがなくなってしまったほど、単なる職業のひとつとなった感がしますし、医師、歯科医師も同じような感覚で見られているように感じられてなりません。

「職業に貴賤なし」との道徳観や、自由平等の価値観というものは考え方としても生き方としても決して間違ってはいませんが、その平等意識がノーブレス・オブリージュを減退させてしまうような風潮を増幅させる遠因になっていたのだとすれば大変に残念です。正しい原理原則も運用の仕方を間違えると、美しさを無くす方向に作用してしまうのではないかと思われます。

子供の教育に当たる教師も、生命を救い健康を守る医師、歯科医師も今一度自身の職業が負う高貴な責任を強く意識し、そのことを国民全体が真に理解し心の底から敬意を感じられるような存在を目指してもらいたいと思います。

1　毅然としてぶれない強さと、凛とした美しさ

「行きたくなる歯科医院をつくる」が出発点

私どもは「“行きたくなる歯科医院”を作る」ことを基本テーマの一つとして23 年間取り組んできました。それが多くの歯科医院の目指す経営発展に繋がる根本であると考えてきたからです。

当社が創業致しました 23 年前は、歯科医院の過剰感が国内に溢れ、一種の危機感に覆われていた頃で、ジャパンデンタル時代に行っていた「精緻な開業地調査に基づく堅実な資金計画」だけでは、無難なスタートダッシュを切ることも、安定経営を発展させることも難しい時代を迎えていました。当社以外にもいくつものコンサルタント会社が登場し、歯科医院経営の健全な成長をサポートしようとしていました。